
銀さん奮闘記～白夜叉と独唱曲～

帰ってきたブシドー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀さん奮闘記〜白夜叉と独唱曲〜

【Nコード】

N2221BA

【作者名】

帰ってきたブシドー

【あらすじ】

「万事屋 銀ちゃん」「白夜叉」こと、坂田 銀時と「狂乱の貴公子」他、異名をもつ 桂 小太郎と「あの人」がひょんなことから、「狂った 緋弾のアリア」の世界」に次元移動してしまう・・・この作品は坂田 銀時を主人公に作者の好きな作品が混ざっている 緋弾のアリア を舞台に活躍する話です。基本的には作者好み設定ですが、最低限 銀魂・緋弾のアリア・ガンダム00 を知っていれば楽しめる作品作りを心掛けます。キャラ崩壊や原作ブレイクもあるので、お気に召さない方はお戻りください。 登場作品、

銀魂・緋弾のアリア（A A含む）ガンダム00・リトルバスターズ・
Angel Beats!・暁の護衛・アスラクライン・IS・真
剣で私に恋しなさい!・fortissimo EXS・セキレイ・
絶対可憐チルドレン・魔法少女リリカルなのはシリーズ・ガンダム
シリーズ（外伝、小説、ゲーム含む）フルメタルパニック・明日の
よいち・あかね色に染まる坂・おまもりひまり・R-15・シーキ
ューブ・デート アライブ・Routes・beatmania
IIDX・デュエリスト×エンゲージ・操心術0・シークレットゲ
ームシリーズ。（今後作品追加可能性大）

第一話「始まりなんてもんはいつも唐突」(前書き)

いきなりな始まり方になりますが、サブタイトル通りです。

誤字・脱字には注意していますが、もしあったらすいません。拙い駄文ですがお楽しみください。

第一話「始まりなんてもんはいつも唐突」

天人（宇宙人）が来襲して、突如価値観が変わってしまった町、江戸。

宇宙人、高層ビル、電化製品などなど何でもありの世界で変わらない“魂”を持った最後のサムライがいた。

男の名は坂田銀時。

通称、万事屋・銀さん。普段は死んだ魚のような気の抜けた目をしていて、基本的に無気力でだらしく適当で、普段から余計かつ卑猥な言動を放つ上に金に汚い。おまけに糖尿病寸前の甘党……

銀時「オイ、そこうるせえぞ。……って俺は誰に言ってたんだ？」

確かに今、イラッとするような事を誰かがぼざいた気がするんだが……気のせいかな。

俺は信号が青になったのを確認し、原付を発進させ、交差点を曲がる。

銀時「とつとと荷物を届けて、入った金で飯でも食うか。」

今回の仕事は、ある荷物を指定の場所まで届ける事だ。こういう事は普通、運送業者に依頼する事だが、依頼されれば何でもやるのが万事屋だ。

銀時「それに結構な額を払うっていうからな……久々にいいもんが食えるぜ。」

新八と神楽には・・・テキトーに土産でも買って行ってやるか。

そんなことを考えながら原付で直進していると、数十メートル先に見知った奴が立ちふさがる。

桂「ふっはっはっはっ！探したぞ銀時！！」

銀時「・・・」

銀時は無言でそのまま桂に突進する。

桂「ちょ、ちょっと・・・なんでスピード落とさないの？むしろスピードアップしてない！？ちょっ！！危ないって、オイ！！って、うおおおお！！？」

バツ！ブロロロォン！

桂は紙一重で回避行動をとり、衝突を避ける。

銀時は数メートル行っただころで原付を停止させ、後ろを向く。

桂はものの見事に近場のゴミ捨て場に突っ込んでいた。

銀時「原付は急には止められないって、習わなかったか？ツラア。」

桂「嘘つけ、絶対轢く気だっただろう！！俺は見たぞ、ブレーキ踏んでなかった！アクセル踏んでた！！！！」

ゴミ捨て場から這い出て来ながら怒鳴る桂。

桂「それにツラじゃない桂だ！」

いつもの名（迷）言を言いながら銀時の側に近付いてくる。

銀時「で、一体何の用だ？」

桂「実は先日、ある人物から俺宛に封筒が届いてな。封筒の中は地図のみが入っていて、裏に『地図に記した場所まで来い』と書かれているんだが……。」

銀時「またいきなりだな？」

てつきり最近は稀になった攘夷活動の勧誘だと思っていた分、肩透かしをくらい声を漏らした。

まあ、分かることと言えば、俺には関係が無いってことだ。

銀時「……あゝそうかい。じゃあ、俺は仕事があるから……。」

桂「待て銀時！重要なのはここからだ、封筒の差出人を見てもろ！」

逃げようとする銀時に、真剣な表情で封筒を押し付ける桂。仕方なしに封筒を受け取り、差出人を見してみる。

銀時「……武田 兼利（たけだ かねとし）」

なんか聞いた事ある名前だな……誰だっけなあ？

桂「なんだ思い出せないのか？……幼き日に同じ学舎、松陽先生の教えを被り、同じ志を持ちながら共に攘夷戦争を駆け抜けた仲ではないか。……まあ、あまりお前とは親しい仲では無かったから

な。」

銀時「・・・ああ、あいつか。」

あんま喋りはしなかったが驚くほど頭のキレる奴だったって事は覚えてる。

銀時「でもあいつは確か・・・。」

桂「・・・そうだ、攘夷戦争のおりに奴の率いた隊は壊滅している。」

死体は見つかっていないが、完全に戦死扱いになっている。

桂「俺も最初はイタズラだと思っていたが、どうも気になってしまつてな。・・・銀時、お前のところに封筒は届いていないか？」

銀時「いや、それらしい物は届いていないな。」

神楽や新八も何も言っていなかったからな。

俺は封筒の中から地図を取りだし、広げてみる。

銀時「・・・この地図、何処かで見たことある気がするんだが。」

桂「なに!?!」

銀時は何を思ったのか、懷から地図を取りだし広げてみる。

銀時「おいおい、丸きっり同じじゃねえか!」

そう、使っている地図の種類も同じの上に今回の依頼の目的地と同じ所に印されていたのだ。

桂「！？依頼主はどんな風貌だった？」

銀時「悪いが依頼主に直接会って頼まれた訳じゃねえーよ。」

先日、神楽や新八と仕事から帰ってきた時に、たまが俺に手渡してきた物だ。

いちようどんな奴だった？とは聞いてみたが、「少々、変わった風貌の男性でした。」としか言わないのだ。

銀時「まあ、それなりに報酬額が高額だったからな。多少胡散臭い依頼でも受けたんだよ。」

桂「まったく、金などに目を眩ませおって！・・・まあ、お前らしいがな。」

そう言いながら俺の後ろに乗ってくる桂。

銀時「オイ、何勝手に乗ってんだ？」

桂「別に構わないだろう？目的地は一緒だ。・・・それともなんだ、新八君は良くて俺はダメとか言うのか？そこまで薄情な男に成り下がったのか銀時！！」

銀時「あゝ、勝手にしろ。」

銀時は原付を発進させ、目的地へと向かっていった。

┆ 目的地、山寺跡地 ┆

銀時「さて、目的地に着いてはみたが……。」

原付を止め、地図で確認する。

銀時「人の気配すらないのは、どういう事だ。」

桂「……何がともあれ、中に入って見るしかないだろう。行くぞ。」

二人は壊れかけた扉を無理矢理抉じ開け、中に入る。ざっと見回してみるが、目に入るのは荒れ果てた仏壇や錆び付いた仏像、そしてホコリと蜘蛛の巣ぐらいだった。

桂「……。」

銀時「……どうやら、騙された様だな。」

随分ふざけた真似しやがる。まったく！こんな遠くまで来てやって結果はこれか！？とんだ時間の無駄遣いだ。

銀時はそのまま外に出ようと歩き出した時だった。

銀時の持っていた荷物が急に白く光り出したのだ。

桂「銀時！その荷物は一体！？」

銀時「いや、中身なんて知らねえし！」

そう言っている間にも白い光りは強くなっていく。少し気味の悪くなった銀時は荷物を仏壇の方へと投げ捨てる。

桂「銀時何を！？」

銀時「いや、これ絶対ヤバイだろ！嫌な予感しかしねえよ！とにかく逃げるぞ！！」

爆発でもしたら冗談じゃすまないからな！！と、出口へと向かおうとしたときだ。

ボタン！！ 何者かが扉を蹴破って入ってきた。

桂「何奴！！」

桂は刀に手を掛けながら相手に訪う。

銀時「ちっ！」

しかし銀時が木刀に手を掛けたときには、周りが完全に光りに呑み込まれつつあり、相手の姿が判別できない状況だった。

????「ん？・・・この声、ツラかあ？」

桂「ツラじゃない桂だアア！！」

というやり取りを最後に完全に視界が白く染まった俺の意識はプツツリと途切れたのだった・・・。

第一話「始まりなんてもんはいつも唐突」(後書き)

いかがでしたか？

感想や意見を送ってくれと嬉しいです。

次回は次元移動後の話になります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2221ba/>

銀さん奮闘記～白夜叉と独唱曲～

2012年1月5日17時51分発行